新型コロナウイルス感染症—疫学・対策から臨床・治療まで—

6) 感染症専門医の立場から

館田 一博

Key words 新型コロナウイルス, 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19), ACE-2, トシリズマブ

2019年末, 中国武漢市で原因不明の肺炎が流行, 2020年早々, その原因が新型コロナウイルスであることが報告された。これまでも新型コロナウイルスとして, SARS (severe acute respiratory syndrome), MERS (Middle East respiratory syndrome) が報告されていたこともあって, 世界中に緊張が走った瞬間である。日本においても, 1月16日に第1例が, 2月初めにはダイヤモンド・プリンセス号における集団感染事例が確認され, 世界中からその動向が注目される事態となった。その後の世界的蔓延はご承知のとおりであり, 6月24日の時点で930万人が感染, 47万人以上の方がお亡くなりになっていることが報告されている。新型病原体ということもあり, 感染症の特徴, 診断, 治療ならびに感染対策に関して, 手探りのなかでの対応を余儀なくされた。この間, クラスタ対策班等の努力により, 密閉・密集・密接, いわゆる3密が重要なリスク因子であることが明らかになっている。新型コロナウイルス感染症は, 基

本的に飛沫, 接触で伝播するが, 会話・発声による唾液の飛散による感染の重要性が明らかとなっている。本ウイルスは咽頭・鼻腔だけでなく, 唾液腺にも感染し, 唾液中に高濃度のウイルスが排出される。また, 本ウイルスはACE-2 (angiotensin-converting enzyme 2) を受容体として感染することが明らかとなり, 血管内皮細胞等を介して全身臓器に感染する本感染症の特徴が報告された。重症例でしばしば経験される凝固異常, 血栓形成のメカニズムを考えるうえでも重要である。本感染症の診断法に関して, 迅速遺伝子検査法に加え, 抗原・抗体検査が利用可能となっている。本感染症では, 無症候性キャリアもかなりの頻度で存在することから, これら検査法をどのように応用していくかは重要な課題である。特に本年2020年の秋から冬にかけては, 本感染症とインフルエンザが混在してみられることを想定した対策が必要になる。治療法に関しても, 多くの薬剤の有効性が検討されている。エボラ出血熱の治療薬である

東邦大学微生物・感染症学講座

117th Scientific Meeting of the Japanese Society of Internal Medicine : New coronavirus~epidemiology, countermeasures, clinics and treatments ; 6) From the perspective of an infectious diseases specialist.

Kazuhiro Tateda : Department of Microbiology and Infectious Diseases, Toho University School of Medicine, Japan.

本講演は, 令和2年8月9日(日)東京都・東京国際フォーラムにて行われた。

レムデシビルが承認されたのに加え、抗インフルエンザ薬ファビピラビル、抗IL (interleukin)-6阻害薬トシリズマブの臨床試験が進行中である。特にトシリズマブの有効性に関しては、本感染症の特徴であるサイトカインストームの阻止の観点からも注目されており、本感染症に対する新しい治療法の可能性を示す戦略として期待されている。この抄録を書いたのが6月24

日。9月の本誌発行時において、どのような新しい事実が明らかとなっているのか。新型病原体に対しては、私たちの経験と英知を結集して対峙する以外に方法はないと覚悟しなければならない。

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし